

式辞

本日ここに、保護者の皆様と共に、福井工業高等専門学校本科ならびに専攻科の令和5年度入学式を挙行できますことは、私達教職員一同にとりまして大きな喜びであります。

このたび入学の日を迎えられた新入生は、準学士課程では機械工学科41名、電気電子工学科41名、電子情報工学科41名、物質工学科41名、環境都市工学科41名、合計205名であります。専攻科課程では生産システム工学専攻16名、環境システム工学専攻16名、合計32名であり、準学士、専攻科課程の入学生は合計237名になります。4年次への編入学生1名、モンゴル、マレーシアからの留学生は3名であり、今年も県内はもちろん、県域を越え、国境を越えて、多くの若い優秀な皆様を迎えることが出来ましたことは、本校にとりまして、大きな喜びであり教職員一同、皆様の入学を心から、歓迎いたします。また、ご列席頂きました保護者の皆様には、お子様の晴れの姿をご覧になり、お喜びもひとしおのことと存じ、本校を代表して心からお祝いを申し上げます。

早期技術者教育として世界が注目する教育制度である「高専」は、昨年60周年を迎えました。令和7年創立60周年を迎える本校では、これまで8788人の卒業生を世に送り出し、実践力のある人材として各方面で活躍しております。本日入学された皆さんも福井高専の学生として実践力を身につけるべく日々研鑽を積んでください。

中学校を卒業して入学した準学士課程の皆様は、年齢は高校1年生と同じです。普通の高専は中等教育機関に分類されます。ここで強調させて頂きたいことは、高専は大学と同じ高等教育機関とされていることです。高等教育とは、普通高校の中等教育とは異なり、学修の成果として学位やそれに準ずる学術称号が授与される課程です。大学と同じ高等教育機関として、工学に関する専門的な技術と知識をもったプロフェッショナルを育てるのが高専です。従って、先生も普通高校では教諭という名称ですが、本校では教授、准教授、助教と称します。普通高校では皆さんを生徒と呼びますが、本校では学生と呼びます。同じ高校1年生の身分なのに、生徒と学生と名称が違うのは、どこが異なるのでしょうか。要約すれば、「教えてもらうのが生徒、自ら学習・研究するのが本校の学生」ということになります。中学校では、家で勉強しなくとも授業が理解できた人も多いと思います。また、家に帰ると保護者に促されて勉強していた人も多いのではないのでしょうか。皆さんが学生と呼ばれるということは、自分で自発的に学修することが求められていることを意味します。高専の授業は進みが早いので、予習・復習を怠ると、すぐ授業について行けなくなります。皆さんは、学生としての自覚を持ち、家庭や寮で自ら勉強して下さい。もちろんわからないことがあれば、遠慮なく先生や友達に質問してください。授業が分かると高専生活が一層楽しくなります。

本校を卒業後の皆さんには、素晴らしい未来と多くの可能性が待っています。本校卒業生に対する社会の期待は大きく、就職予定学生の50倍以上の求人があります。皆さんの先輩は、世界に展開している一流企業や地元企業で活躍しています。

また、5年卒業後に国立大学への編入学や、専攻科修了後に国立大学の大学院へ進学して活躍している先輩も大勢います。進学先の多くは国立大学で、東京大学などの一流大学も含まれています。高専から大学や大学院に進んだ卒業生で、世界トップクラスの大学教授となって活躍している先生方もたくさんおります。私自身も高専卒業生の一人です。また、本校教員にも多くの卒業生がおります。本校は、いわば5年制または7年制の高大一貫校であり、皆さんは、優良進学校に入学したともいえるのです。

本校で皆さんが学び、体験することができる機会は、授業や実験・実習のほかにもたくさんあります。部活動や様々な学校行事、国際交流活動、寮生活、英検などの資格取得、高専ならではの各種コンテストへの参加など自己研鑽の機会は数多く用意されています。学業第一であることは言うまでもありませんが、これらの活動を通じて本校の基本理念とする「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者」として卒業後、国内外で活躍して頂くため、教職員一同サポートさせていただきます。

終わりに、保護者の皆様には、これまで申し上げました本校の教育方針をご理解賜り、学校と共にご家庭においてもお子様の教育、ご指導にご協力ご支援賜りますようお願い申し上げます。また、今後とも、伝統ある本校教育の発展にご尽力賜りますよう、心からお願い申し上げます、私の式辞とさせていただきます。

本日は、ご入学おめでとございます。

令和5年4月6日

独立行政法人国立高等専門学校機構

福井工業高等専門学校校長

長谷川 章